東京東村山ロータリークラブ　国際ロータリー第2580地区

週報

国際ロータリーテーマ

ロータリーを
実践し
みんなに
豊かな人生を

Vol.47　第2280回例会　2013.9.26

今年度会長テーマ　話と和で輪を広げ　ロータリーをもっと身近に

■司会：
北久保例会運営委員

■点鐘：野村会長

■合唱：ロータリーソング
「それでこそロータリー」

◆ソングリーダー：
荻野会員

■お客様紹介：小町パスト会長

◆ゲスト：米山奨学生
陳イ秀様

■会長報告　野村会長

豊島東ＲＣ夜間例会

過ごしやすい季節が到来したようです。朝晩の涼しさはこれまでのものとは全く違う事が良くわかります。毎朝散歩していますが、子供達がこの所の強風で落ちてきた栗のイガを足で踏みつけて栗の実を取り出していました。

ここ一週間程の間に2つの委員会に出席してきました。一つは、當麻委員長と会員増強委員会に出まして、2750地区パストガバナーの市川伊左夫さんの講演で、面白かったのは、「火の用心」という方法で退会者を防いでいるクラブのお話でした。クラブ内で少人数のグループを作り、お互いに退会しないよネと声掛けるとの事。後一つは、職業奉仕委員会の公開講座で後程野澤委員長から報告があると思います。

少し古いお話ですが、8月21日(水)に、東京豊島東ＲＣの拡大移動夜間例会に参加してきましたので、その件について、少々お話したいと思います。先日バギオ基金について、卓話をお願いしました前川パストガバナーが所属するクラブでした。皆様の中で、前川パストガバナーのことをご存知の方は多いと思いますが、和敬塾についてご存知の方はあまりいらっしゃらないかと思いますが、当日は、和敬塾に付帯する旧細川公爵邸の見学があり、建物の中を案内してもらったのですが、建物は東京都指定有形文化財の為、原則非公開なのですが、参加者約30名程で見学しました。不定期の見学だと1,050円入場料がかかりますが、当日は無料でした。この建物は細川家第16代当主細川護立(旧首相細川氏の祖父)氏が昭和11年に建設された代表的な華族邸宅で、前川さんの父親が昭和30年に敷地7,000坪で購入し、学生寮として現在に至っています。建物自体は戦火を受けず残った貴重なもので、当時の壁紙・ガラス・建具・書物等一目見ただけで唸ってしまうような建物でした。約1時間の見学後夜間例会となり、その後親睦会は、1階の趣のある宴会場で、素晴らしい料理と飲み物を頂き充実した例会でした。当日奨学生だった広澤君を同伴し、前川さんにケンブリッジ大学の現役学生であることを伝えたところ、この学生寮は、ケンブリッジ・オックスフォード大学を意識して、建設したとの事でした。広澤君はまんざらでもない様子でした。

■幹事報告　石山幹事

■ガバナー事務所：
・「意義ある業績賞」申請について
推薦書式受付締め切り　12月20日（金）
・ガバナー公式訪問の礼状の受理
・「日台ロータリー親善会議」開催日について
2014年1月26日　14:00
於　台湾（台北）円山大飯店
（詳細は後日）
・2014～15年度地区補助金プロジェクトの件について
最終受付　2013年9月30日　厳守

■国際ロータリー日本事務局：
10月のレート　1ドル＝100円

■米山奨学委員会：
地区米山奨学委員会開催の案内について
2013年10月8日（金）　13:00～
於　ガバナー事務所

■多摩分区Ｉ・M実行委員会：
多摩分区Ｉ・Mフォーラムについてのお願い
フォーラムテーマ「会員増強と出席義務のジレンマ」
各クラブ会長の討論形式

■出席報告　清水例会運営委員

在籍会員数	出　席	免　除	欠　席	出席率
30	24	0	4	85.71

■前々回メークアップ修正後前々会欠席：4名
■前々回出席率メークアップ修正後：85.71％
■前々会メークアップ者：
漆原会員：所沢中央ＲＣ
山宮会員：東京立川ＲＣ

■ニコニコＢＯＸ　山宮クラブ管理副委員

■皆出席：
野村会長（11回目）

■米山功労者感謝状授与：
田中会員

◆野村会長、石山幹事：
先週のガバナー公式訪問、皆さん大変ご苦労様でした。お陰様でスムーズに終了しました。ありがとうございました。チン・イシュウ様、本日は卓話よろしくお願い致します。

◆田中会員：第50回東村山市体育大会のゴルフ、荻野さん、清水さん、野澤先生お疲れ様でした。恩多町が18年ぶりに優勝できました。個人でも準優勝し、美味しい美味しいお酒が飲めました。クラブ選手権マッチ準決勝4ホール残し5アンド4。今度の日曜日に36ホールの決勝です。何としても優勝し歴史に名を残します。今、人生最高に楽しいです。

◆中丸会員：昨日は東村山ゴルフ連盟の大会、田中さん、荻野さん、清水さん、ご苦労様でした。恩多町が優勝とのこと。田中さんおめでとうございます。米山奨学生の陳さんようこそ。卓話よろしくお願い致します。

◆荻野会員：田中重義さん、東村山連盟大会恩多町優勝おめでとうございます。ついでに私も7位でした。

◆野村（裕）会員：
写真ありがとうございました。チン・イシュウさんようこそいらっしゃいました。本日の卓話よろしくお願いします。

◆北久保会員：
9月19日の日付入りの吉田ガバナー公式訪問の写真を頂きました。野村会長いつもありがとうございます。又、私は昨日俳優座で「三人姉妹」というチェーホフの演劇を鑑賞しました。役者魂に大変感動しました。プロはすごいです。

◆小町会員：歩こう会、良い季節ですので多くの参加をお願いします。
◆金子会員、嶋田会員、五十嵐会員：写真ありがとうございました。

本日のニコニコ合計：　22,000円
累　　計　：　511,574円

■委員長報告

■野澤職業奉仕委員長

江戸時代の商業道について
～石門心学と現代～

石門心学は、石田梅岩の「都鄙問答」(1739年)をテキストとして、商人の倫理、道徳さらには経営哲学を説いたもので、江戸時代の商工業のビジネスの発展に大きな役割を果たした。明治以降も戦前までは、商工業者における石門心学は、農村における二宮尊徳の報徳思想と同様に大いに尊重された。

今回は、現代的な観点に立って、石門心学の概要と骨子をお話しすることにしたい。

1.石田梅岩の人物と生涯
2.石門心学の発展と「道話」
3.石門心学の経済学と利潤
4.石門心学における販売と顧客
5.石門心学における使用人と雇用の管理
6.始末・才覚・算用のビジネススキル
7.三井越後屋の経営と心学
8.結び－江戸時代の再評価－

■村越プログラム委員長

先週ガバナー訪問の時、我がクラブは男性ばかりで明るさが無いというお話がありました。女性会員に入会してもらい、明るさと会員増強の突破口にしたいと思い、11月28日に東大和ロータリークラブの女性会員に卓話をお願いしました。中田紀子さんと藤宮志津子さんの2人です。きっと良い卓話をして下さると思いますので期待して待っていて下さい。

■相羽歩こう会幹事

第4回歩こう会のご案内です。多摩湖遊歩道と玉川上水を歩こうというテーマで下記のとおり開催します。

■期　日：10月19日(土)　雨天中止、小雨決行
■集　合：1.武蔵大和駅前　9:00
　　2.小平駅前　10:20
■行　程：武蔵大和　9:00
　　小平駅　10:20
　　小平ふるさと村(休憩)　10:50
　　ふるさと村　11:30
　　小金井公園(昼食)　12:40～13:40
　　喜平橋　14:30
　　平櫛田中記念館(見学)　15:00～16:00
　　見学後解散
■持ち物：お弁当、水筒、敷物、雨具

■嶋田会員

東村山歴史とロマンについての案内がありました。

■卓話

■卓話者紹介：
第2580地区米山奨学委員会
副委員長 野崎一重会員

■卓話者：米山奨学生
陳イ秀様

私と米山奨学会

皆様、こんにちは。お茶の水女子大学の博士後期課程に在籍しております、陳イ秀と申します。台湾の高雄からまいりました。

現在お茶の水女子大学で日本の江戸時代前期の文学について論文を書いております。少し簡単にご説明い

たしますと、今取り組んでいる作家は、井原西鶴と同時代に活躍した江戸前期の仮名草子作家で、坂内直頼といいます。彼の書いた風俗関係の作品は作者未詳、つまり作家がわからないものとされているものが殆どでした。またこれらの著作は今まで井原西鶴の好色一代女などの作品と類似した趣向を持っており、互いに影響関係にあるのではないかとされています。これからはこれら作者未詳の作品を、坂内直頼による著作であることを証明し、彼の著作の実態を明らかにし、より彼と井原西鶴の影響関係を浮き彫りにしたく存じます。

まず、日本との関わりについて少しお話させて頂きます。私が初めて日本という国に関心を持ち始めたのは大学の時でした。その時大学のセンター試験を受け、その結果により台湾で英語の次に重要な日本語を専攻することに決めました。正直に申し上げますと、日本語学科に入るまで、日本という国に対して、ただ漠然とした印象しか抱きませんでした。例えば、日本は先進国とか、ジャニーズなどのアイドルがたくさんある国とか、日本人はとても真面目な民族などなど、そういったステレオタイプのイメージしかありませんでした。しかし、日本語学科に入ったことをきっかけに、台湾という国がいかに日本から影響を受けたか、そして台湾の至る所に日本商品や文化が溢れていることを実感している毎日となりました。最近のことを例にしますと、私が小さい時から中国語で言うと可果美というメーカーのケチャップが大好きで、そのメーカーのケチャップ以外のメーカーのものを殆ど口に入れない程でした。私の中では可果美のケチャップは言わば国民の味のようなものです。実際可果美は恐らく台湾でも一番有名なメーカーかと思います。それが最近となって、近くにあるスーパーで買い物をしている時、突然気づいたのですが、私がいつも台湾のケチャップの味に近いと思って買っていたカゴメというメーカーはまさに台湾の可果美ではないか！ということです。その時の衝撃はいまだに忘れられないのですが、改めて日本は台湾にとって重要な国だなと思いました。また、私が日本語学科に入るまで、ずっと自分が日本文化にあまり接したことが無いと思っていましたが、よく考えれば、私が子供の頃より大好きなアニメ、ドラえもんやジブリのトトロや天空の城ラピュタなども全部日本のものではありませんか。私は自分でも知らないうちに、小さい時から日本文化に触れていたんだと思います。日本文化は外国文化ではありますが、今となっては私にとって自分の文化と並ぶくらい大切な存在となりました。

日本語学科に入ってから、しばらくの間日本語という難しい外国語に挑戦していました。やりもらいの表現や謙譲語、敬語など中国語に無いものが多いため、文法の難しさに圧倒されました。最初日本語にも漢字があり、そして漢字音もたくさんあるので、英語より簡単なのではないかと思っていましたが、実際に習ってみますと、確かに語彙の面では楽なところがありますが、喋ることと文法に関しては、やはり日本語の方が圧倒的に難しかったです。今のように喋れる様になったのは、6年間ぐらいもかかりました。大学を卒業した後、台湾の大学院に入って、江戸文学を専攻していましたが、その時台湾にいたということもあり、日本文学の文献の収集や解読するのにとても苦労しました。そして大学院最後の年につい論文を完成させるために交換留学をすることに決めました。最初は日本の生活に馴染めないじゃないかととても心配していましたが、来てみたら意外とすぐに慣れました。この一年間は今から思えば、とても大切な一年間でした。その一年間の交換留学を通して、私は心底日本文学の魅力を実感できたからです。例えば、台湾にいた頃、私はずっと在原業平の「世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし」という和歌が理解できませんでした。それを中国語に訳すと、世の中はもし桜が無かったら、春をのどかな気持ちですごせたのにという意味になりますが、どうして桜ごときであんなに気持ちが苦しくなるのか全然わかりませんでした。それが日本に住んでみて、自分が日本人と同じように四季を過ごしてみたら、初めて業平の気持ちが少しわかったような気がしました。だって桜の花は本当に美しいですもの。無論現在の桜の品種は平安時代と違うと思いますし、私は当時の業平と同じ桜を楽しめたとは言い難いのですが、私も業平と同じように桜のあまりの美しさに魅了され、桜が散っていくのを寂しく思うものです。やはり文学というのは、その素晴らしさをわかるのに、その文学の生まれた国に住んでみないとわからないものだなと改めて思い知らされました。そのほかに四季ごとにある祭り、春は桜祭り、夏は盆踊りやほおずき市、秋は神田古本まつりや人形まつり、冬は浅草の酉の市などもたくさんあり、日本人ではないのに日本人と同じように四季に沿う花や祭りを楽しめることにより、紙面では味わえない日本文化の面白さや味深さをその一年間で体験できました。そこで日本文学を本格的にうあるのに、やはり日本に住んでみないと感じ取れないものが多いと痛感し、2008年の夏にやっと日本留学することを決心しました。そして試験や奨学金の試験を受け、2009年の四月から日本留学は本格的にスタートしました。

日本留学の最初の一年は思っていた以上に慣れるのに時間がかかるものでした。交換留学の時と違い、日本の大学の正規生になったものですので、先生が私に対する期待や要求も一段と厳しくなり、自分の日本語の能力の低さに痛感している毎日でした。しかしその反面、日本文化や日本人の今まで知らなかった一面も少しずつ見えてきた気がします。例えば、今までずっと日本人は何故そんなに飲み会が好きなのか理解できませんでしたが、実際自分も何回か参加してみたら、普段真面目な教授や先輩方も飲み会でお酒を飲み始めたら、皆かなり打ち解けた雰囲気になり、恋の話や人生相談など、学校ではなかなか話せない話題も飲み会の場なら上限関係など隔たり無く皆楽しく話をすることができました。飲み会はきっと日本人にとって寛ぎの場だなと思いました。

次に、米山奨学会の話に入りたいと思います。米山奨学会のことを知ったのは、一昨年のことだったと思います。お茶大の奨学金募集を応募しましたが、その時に国際交流チームの方から米山奨学会を勧めて頂きました。その方の仰るには、米山奨学会は国際奉仕や交流に力を入れている組織であって、しかもこの奨学金が一番他の奨学金と違うのは、世話クラブの例会に月に一度出席すると義務付けられている制度と、奨学生各人につきカウンセラーがついているという特殊なシステムになっているという説明を受けました。私はその時に米山奨学会のことについて何もわかりませんでしたが、国際交流に興味を持っているので、勇気を振り絞って米山奨学会に申し込みました。そうしたら面接の時に、色々な質問をされました。例えば米山奨学会はかなりイベントの多い組織であって、しかも場合によって急にスピーチを頼まれたりもしますが陳さんはそれでも大丈夫ですかなどと確認されました。その時に思ったのは、どうしましょう、大丈夫かな。私は決して社交的な人ではありませんし、大勢の人の前でスピーチした経験もそんなに多くないので、やっていけるのかなとひそかに心配していました。しかし、やはり自分の弱点を克服したいですし、せっかく外国まで留学しにきましたので、もっと外国の方や日本の

方と交流したい！という思いで、審査委員の方々の前で、私は決して話し上手ではありませんが、スピーチでも何でも頑張ってみますと答えました。

合格した後も、ずっと不安な気持ちでいっぱいでした。結局オリエンテーションの日になって、初めて私のカウンセラーの山本さんとお会いしました。山本さんはとても優しい方でして、初対面であるにもかかわらず、非常に親切に接して頂きました。でもまだ初対面というのもあって、カウンセラーの方とは具体的にどう付き合っていけばいいのか全くわかりませんでした。そして、とうとう初めての例会の日を迎えました。私は東京ロータリーに所属していますが、その支部は東京で一番大きな支部というのもあり、参加者はざっとみますと、200人を超えているような印象でした。実に申し上げますと、ロータリー奨学会に来るまで、あまり年配の方と接する機会が無くて、最初はどきどきしました。自分はうまくコミュニケーションを取れるかなって心配していました。でも、皆様とても親切に声をかけていただいて、台湾に行った時の印象や、台湾との思い出なども語って頂いたおかげ、すに緊張感が取れました。私の同級生の方は皆台湾とはあまり繋がりのない方が多いので、普段なかなか日本の方が台湾についての印象を窺がえませんし、少し寂しかったのですが、ロータリーの方々は以外にも台湾に行かれた経験のある方が多くて、中でも何十回も行かれた台湾通の方もいらして、さすが国際色豊かなロータリークラブだなと思いました。

米山ロータリーのカウンセラー制度はとても特別な制度です。私も普段日本人の友達に、今もらっている奨学金は奨学生一人につき一人のカウンセラーがついていると言いますと、すごく不思議がられます。でも、私はまさにこのカウンセラー制度という留学生をサポートして下さる制度があるからこそ、助けられている部分が多いと思います。

私自身を例にしますと、先ほど申し上げましたように、私のカウンセラー方は山本さんといいますが、山本さんとは去年の四月のオリエンテーションの日に初めてお会いしました。山本さん自身、大学で教えていたこともあり、私の研究や論文のことなど非常に気にかけて頂きました。毎月の例会に山本さんとお会いして、研究は大丈夫ですか、うまくいきましたかと親身になって話を聞いて頂きました。また、山本さんからもお体の健康のこととか、最近の旅行話などを聞かせて頂き、楽しかったです。今年の台湾のお正月の時、山本さんは台湾のお正月のことを覚えていてくださって、例会の日にわざわざお年玉を頂きました。私は感動のあまりお礼を言おうとした瞬間に、山本さんに謝られて、「陳さんごめんなさい。「紅包」という中国式のぽち袋が見つからなくて、代わりに日本の封筒に紅包で書きました。すみませんね。」と言ってくれました。それを聞いて本当に涙が出てきそうな思いになって、その場で「いやいや、本当にそれで良いです。」と言いました。私の日本人の友人でさえ台湾のお正月を知らない人が多くて、山本さんがそれを覚えて下さったこと、また山本さんから身に余る優しさを頂いたことに、感激の一言でしか言い表せません。

私のカウンセラーは今年の七月から、林克昌さんという方に代わりましたが、今年の四月の例会の時、山本さんから記念のプレゼントを頂きました。陳さん、今年の七月からあなたのカウンセラーじゃなくなるので、記念にと渡して頂きました。プレゼントを開けてみたら、何とブックカバーでした。その時また山本さんから、「陳さん、すみませんね。あなたの名前のローマ字表記がわからなくて、こうなってしまった。」と仰って、ブックカバーの内側をめくってみましたら、何とブックカバーの内側に私の名前のローマ字綴りが見えて、これは名前入りのブックカバーであることに気づきました。恥ずかしながら、この年で名前入りのプレゼントを頂いたのは初めてでした。感動のあまりに、ただひたすらに山本さんにありがとう、ありがとうとしか言えませんでした。もちろんプレゼントが全てではありませんが、やはりこの二つのプレゼントから伝わった山本さんの優しい気持ちに気づいた時の感動はいまだに忘れられません。これからも山本さんの気持ちに応えられますよう良い論文を仕上げて行きたいと思います。山本さん、この場をお借りして改めてありがとうと御礼を申し上げます。

また、他のロータリー奨学生からもよく彼らとカウンセラーとの交流の話を聞いています。例えば、ある奨学生のカウンセラーがとてもお料理が上手な方でして、よくその方が彼女を家に招いて、手料理を振舞って、彼女のことを実の娘のように可愛がっていました。あるいは、もう一人の奨学生の方がカウンセラーと仲が良くて、カウンセラーの方とよく国内旅行へ出かけていました。などなど、ほかの奨学生の方の話、及び自分自身の経験からすると、カウンセラーの方は心のケアもさることながら、まるで私が日本のお父さんのように世話をしてくれる存在だと思います。留学生の中では、親戚の方が日本に住んだりする人もいますが、それはやはり少数派でして、大半の人は私と同じように日本でいざという時に相談に乗ってくれる人が少ないのです。でもロータリーの奨学生になったお陰で、一ヶ月の間に少なからず一回ぐらいカウンセラーに会えるという保障があるので、とても心強いです。

今のカウンセラーの林克昌さんですが、林さんも山本さんと同じようにとても気さくで親切な方です。まだ何回かしかお会いしていませんが、毎回例会のある時に、いつも勉強のことや、生活のことなど気にかけて頂きました。

ロータリーとの出会いは私にとってとても特別な体験です。ロータリークラブに出会えた事で、私は色々な国の方と知り合うことが出来ましたし、たくさんの人の心遣いに触れ合うことができまして、自分も優しい気持ちになりました。自分もロータリークラブの方々のようにいつか自分のような留学生を支援できるようになれたらと思っています。ロータリーの奨学生としていられるのは後半年間しかありませんが、これからもロータリーの一員として、皆様のお力になりたく存じます。ご清聴ありがとうございました。

■閉会点鐘：野村会長